

個に応じた教材・教具の活用

子どもの自主的・主体的な学習を推進し、基礎的・基本的な内容を子どもが確実に身に付けるようにするためには、教材・教具を適切に活用する必要があります。

<教材・教具>

- ① 特別支援教育に関する市販の教材・教具
- ② インターネット等を活用し、ダウンロードできる教材・教具
- ③ 個々のニーズに応じた教材・教具の創意工夫（作製）

☆活動の場、かかわる人、活用する用具等・・・すべてが教材・教具となります。

教材・教具の工夫により、子どもの反応がより見られたり、自発的行動を引き出せたりしたときの感動は最高ですね！



教材・教具の機能



自発的な行動を発現させる機能

子どもの興味・関心を引く教材・教具は、子どもの自発的行動を自然に生起させる要因の一つになります。

学習の動機づけをさせる機能

子どもに何らかの学習のきっかけを作ること、取りかかりの内発的動機づけが重要です。

学習を系統的・構造的に展開させる機能

子どもの発達の実態に合わせて系統的な学習を進めるために様々な工夫が必要です。

学習を深め、学習の効率を上げる機能

実態に合った教材・教具が準備され、適切な指導が図られると子どもの学習効率が上がります。

よい教材・教具とは

子どもをよく知る（実態把握）ことからスタートします。



＜教材・教具の工夫・開発の観点＞

- ①注意を引きつけ、活動を引き出すこと
- ②正しい反応を強化できるものであること
- ③個のニーズに合ったものであること
- ④周辺生活の処理能力の伸長を促すこと
- ⑤集団生活への参加を促すこと
- ⑥生活経験の拡大を図ること
- ⑦事柄を数量的、合理的に処理する力を養うこと
- ⑧感受性を高め、表現力を伸長すること
- ⑨ことばの発達や弁別、形態把握の力の向上を促すこと
- ⑩健康の増進を図ること
- ⑪感覚、運動機能の発達を促すこと など

＜教材・教具作製にあたっての留意事項＞

- ①安全面に十分注意する
- ②操作が簡単で、壊れにくいもの
- ③身近な材料を利用する ＜個に応じて材質、デザインを検討＞
- ④子どもの課題解決や達成感につながるもの
- ⑤清潔な状態で保存が容易
- ⑥興味関心をひくもの
(形、大きさ、色・・・)



授業の目標を常に念頭におき、効果的に活用していくことが重要です。

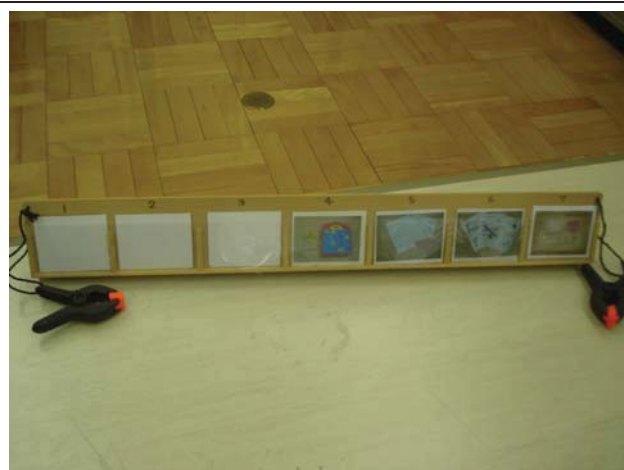
子どもたち、一人一人の顔を思い浮かべ、教材・教具を工夫、作製していきましょう。授業の流れをイメージし、教材・教具の効果的な提示について考え、子どもの反応を予想します。入念な準備は、授業者自身が授業を楽しみにすることができます。そんな授業を毎回行っていきたいものですね。



＜参考・引用文献＞

○「特別支援教育の授業づくり 46 のポイント」、太田正己著、梁明書房（2006）

教材・教具の紹介



＜学習課題予定板＞ ～TEACCHプログラムのワークシステムをもとに～

個別の課題学習において、その学習時間に行う課題を写真に撮り、差し込み式で示したスケジュールボードです。洗濯ばさみの部分を机の前方に取り付けて固定することにより、子どもが見やすく、また、教材等を机から落とすことも防ぎます。1つの課題が終わると裏返しにして、次の課題を行います。課題の難易度のバランスを考え、順番を工夫して入れることで、教師一人で3～4人の子どもを指導していくことができます。机を壁際に移動し、子どもの背中側を壁にすることにより、言語表出がなく、着席持続が難しい重度の自閉症のある子どもでも短期間で時間内落ち着いて取り組むことができるようになり、課題遂行量も増やすことができます。



＜絵と文字のマッチング＞

絵と文字を合わせて、クリップでとめていく作業課題です。どれだけやると終わりなのか、見通しがもちやすく、また、クリップでとめるという1つの工程が意欲を高めるようです。少ない数から練習し、ある程度定着すると一人で黙々で行うようになります。



＜数（1～3）の学習＞

1～3の数字を見て、その数分、物を入れていく課題です。これは、赤いストローを切った物を使っています。まずは、袋に赤いシールを貼ったものから練習し、徐々に数字だけでできるようにしていきます。この課題も作業性があり、慣れてくると一人で進めていくことができます。



<ネジの締めはずし>

比較的、重度の障害のある子どもも喜んで取り組みます。大小様々あるネジとナットの大きさを区別し、締めたり、はずしたりしていきます。指先の巧緻性や集中力の向上にもつながります。最初は同じサイズのもので練習するとよいでしょう。待っている時間を作らずに、「これ作って!」「はずしておいて!」等、結構使えますよ。



<カードの弁別>

これは、数字カード（ドット入り）の弁別課題です。差し込み式の弁別板を1つ作っておけば、使うカードを変えることで、様々な弁別学習ができます。数字のみ、ドットのみ、文字、形、色・・・見分ける力をつけていくことは、学習を広げたり、深めたりしていく上でもとても大切です。



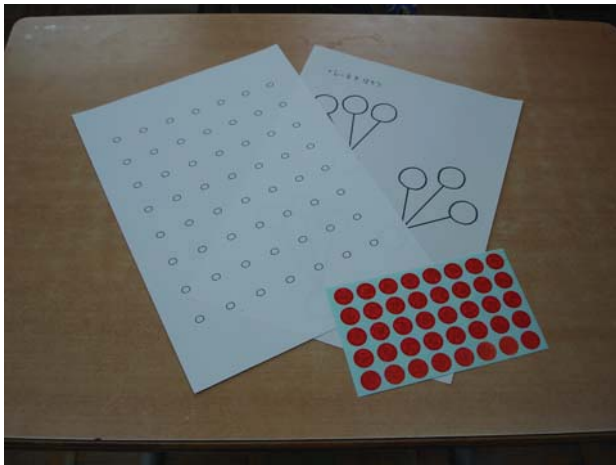
<ひも結びの練習>

最近、マジックテープの靴やかぶりのエプロン等もあり、ひもを結ぶ場面が減ってしまいました。蝶結びができるよう毎日練習をしていくといいですね。太めのひもで色を分けるとわかりやすいです。徐々に同じ色で細くしていきます。板に自分の名前を書いておき、登校時にしばって下校時にはずすことを毎日行いました。



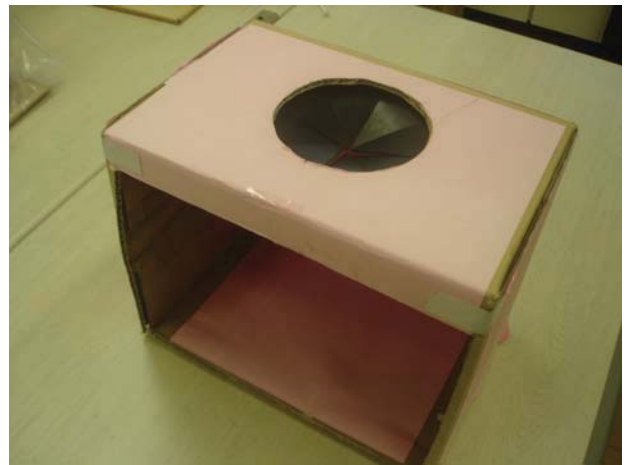
<スタンプ押し>

スタンプを枠の中に押していく課題です。作業所等でも袋にスタンプを押す作業がありますね。その都度、スタンプ台を使ってインクをつけ、丁寧にはっきりと1度だけ押すという作業は、なかなか難しく、練習が必要です。



<シール貼り>

印に合わせてシールを貼っていく課題です。お店に行くと、大小様々なシールがありますので、子どもの実態に合わせて選ぶといいですね。一番小さいシールでは、大人でもかなりの集中力を要します。子どもたちはシールが好きなので、あまり嫌がらず取り組むようですね。



<さわってあてよう>

ダンボール箱の1面を丸く切り取り、黒いゴムシートに切れ目を入れて取り付けましたものです。手を入れて、中にあるものをさわってあてる・・・レクリエーションで行うと盛り上がりますよ。



<めくり>

朝の会や帰りの会、何かの行事での司会進行や発表等、言語表出が困難な子どもがカードをめくって進めていきます。話が難しくても、できる役割を果たしていくという日々の小さな積み重ねが大切だと思います。

ホームセンターや 100 円ショップの店内を眺めていると楽しいですね。何気ない身近な物が教材・教具として活用できます。



※ここで紹介しました教材・教具については、茨城県教育研修センター特別支援教育課 奥岡が前任校で活用していたものです。何かご質問等がありましたら、研修センター特別支援教育課までお問い合わせください。